

## 水稲新品種「テンリョウ」について

岩下友記・新屋 明・松元幸男・山川恵久

(鹿児島県農業試験場)

I WASHITA, T., SHINYA, A., MATSUMOTO, S. and YAMAGAWA, Y.

A New Variety of Paddy Rice Plant "Tenriyou"

水稲「西南42号」は、昭和45年から熊本県で奨励品種に採用されその通称名を「テンリョウ」と命名し、普及に移されることになったのでその育成経過と特性概要について述べ参考に供したい。なお本品種の育成に直接従事した職員は松清光二と筆者等である。

## 来歴ならびに育成経過

テンリョウは、昭和36年鹿児島県農業試験場において「コシヒカリ」を母、「若葉8号」(黄金錦)を父として人工交配を行い、以後系統育種法により育成固定をはかり昭和42年(F<sub>7</sub>)で「西南42号」の系統名を付して、関係各県に配布して地方的適否をたしかめて来たもので、昭和45年(F<sub>9</sub>)にて水稲農林213号に登録され「テンリョウ」と命名された。

## 特性の概要

1. 形態的特性 稈長、穂長、穂数はほぼ「コシヒカリ」と同程度で中間型に属するうち種である。芒は稀に短芒を有しふ先色は白である。稈は太い方でないが、倒伏性は強い。脱粒性は難、粒着の粗密は中で、玄米の形状、大小は中玄米の見かけの品質は「コシヒカリ」にわずかにおよばないが良質の部類に属し、食味も良好である。

2. 生態的特性 出穂期、成熟期は「コシヒカリ」より約1週間遅い晩熟種である。いもち病低抗性は葉いもち、穂いもち、ともに「コシヒカリ」より強く「フジミノリ」と同程度かやや弱い、穂発芽性はやや難、収量は「コシヒカリ」より多収で、安定している。

## 適地および奨励品種採用県

熊本県天草諸島における早期栽培地帯の晩熟種として、最も適しているが、その他の西南暖地における早期栽培地帯においても栽培は適する。昭和45年度より熊本県で奨励品種に採用され、普及見込面積

は約2,100haである。

## 一般特性

品 種 名	テンリョウ	コシヒカリ	ホウネンワセ
形 質	テンリョウ	コシヒカリ	ホウネンワセ
早 晩 性	早の晩	早	早
草 型	中 間 型	中 間 型	やや穂数型
出 穂 期	7月8日	7月1日	7月1日
稈 長	83 cm	83 cm	85 cm
穂 長	18.2cm	18.1cm	17.7cm
穂 数	19.8本	21.1本	22.9本
芒の多少・長短	稀 短	ム・ム	稀 短
脱 粒 性	難	難	難
ふ 先 色	白	白	白
倒 伏 性	ム	中	紅 褐
穂発芽性難易	ヤ 難	難	中
葉いもち病耐病性	中～ヤ弱	弱	弱
首いもち	弱	弱	弱
紋 枯	弱	中	中
縞 葉 枯	中	中	中
α 当 玄 米 重	47.4kg	43.7kg	41.0kg
玄 米 千 粒 重	19.0g	19.1g	19.4g
玄 米 品 質	上 下	上 下	上 下
食 味	良	良	良
調 査 地	鹿児島県農業試験場(昭和41～44年平均)		

## 栽培上の注意

- (イ) 早期栽培用の晩熟種であるので早生地帯の栽培には不向である。
- (ロ) いもち病低抗性は、十分とはいえないので、いもち病常発地帯での栽培はさける。
- (ハ) 早期栽培下では、過熟になったり、乾燥法が悪いと品質の悪化が著しいので、適期刈取と適切な乾燥に心がける。

## 命名の由来

栽培適地である天草諸島が江戸時代幕府の直轄地(天領)であったことにちなむ。